

2011年7月21日 公演時間 午後2時より

## 裏磐梯猫魔ホテル

イタリア、フィレンツェ在住で、日本語学校を経営し毎年ジャパン・フェスティバルを開催し、イタリアで日本の文化を広めていらっしゃる、佐々木博美様からの御縁で志村れい様を御紹介頂き、先日の那須甲子少年自然の家の慰問公演を見て下さり、是非、裏磐梯にも慰問に来て欲しいとのお言葉を頂き実現致しました。志村様は福島県双葉郡広野町で、避難しなければならないエリアにある病院を経営していらっしゃる、テレビでも度々報道されてもいますが、震災で症状が悪化し動かす事の出来ない患者様がいらっしゃるこのことで、今も裏磐梯と広野町を行き来していらっしゃいます。避難生活も4カ月を過ぎ世間からは忘れ去られようとしている現状、



裏磐梯猫魔ホテル

そして最近では慰問公演に誰も来なくなっており、お役所の方もホテルも、被災者の方達を受け入れる体制が苦しくなっている、そのように被災地を実際に見ていらっしゃるからこそ、「うつむいている人の顔を上げましょう！」との熱い想いでお役所を説得して下さいました。

今、避難者の方達は夢も希望もなく、ただ生きているだけ…

是非、ママローザのチェルノブイリにいった体験、経験に基づいたお話をきかせてほしい、そして皆さんを励ましてほしいとのお言葉を頂きました。この公演のお話を頂いた日、偶然にも姫路にお住まいの寺西美千代様が、私達の活動を理解し応援して下さいっている御友人の方から頂いた、段ボール7箱分もの真心の商品をフリーマーケットで売ったお金、¥69,450を慰問公演に行く時の諸経費に使って頂きたいと姫路からわざわざ届けて下さった日で、私達に自然の流れで公演に行く機会を頂いた気がいたしました。

裏磐梯猫魔ホテルには約160名の福島県双葉郡大熊町の方が避難されています。公演が始まる前にお話しした女性は、私達はこの避難所から皆、月末までに出て行かなければいけないんです。私は仮設住宅に27日に引っ越しますが、先が見えなくて不安が…、と仰っていたのですが、私達のパンフレットをお渡しすると、すごく喜んで下さりママローザの「私は人の見る夢を壊したくない 感動を与え続けていきたい

私は人の見る夢を育ててゆきたい ひとときの慰めでもいいのです  
天国にいる気分を与えてあげたい  
今苦しんでいる心を忘れさせてあげたい…。」

声を出して何度も何度も読んで  
らっしゃいました。

公演が始まると、このホテル退去  
の日も近いことから、静かでしたが  
藤中夢弥座長と龍華組の元気、  
活力の舞、酔唄が始まると皆さん  
大きな手拍子！そして、夢弥座長と  
響のお笑い天宝山においては、

「入れ歯を落として笑っちゃった！  
人生でこんなに笑った事ないよ！」

と言って下さった方、



また、チェルノブイリで被災した方達のために  
捧げた舞、『慈しみ』では手を合わせたまま見て  
下さった方もいらっしゃいました。公演最後、  
笑顔で皆さんずっと手を振って下さり、  
仮設住宅の抽選にはずれて落ち込んでいたけれど、  
元気になりました、とママローザに話してくれた  
方、そして、涙を流しながら、私達は東電を  
怨んではいません。一生懸命原発のために働いて  
いる方達に、感謝をしています。ただ私達は

もっと大熊町の地元の声聞いてほしい、この避難所も月末で  
出なければならないのに、どこに行けばいいのかもわからない、マスコミ  
も政治家も誰も報道してくれない…。現地に行っているからこそ、  
聞こえてくるそこにいる人達の叫び…

ママローザの言葉のなかに

「あなたが救ってあげなければ 誰が救うのですか  
あなたが守ってあげなければ 誰が守るのですか  
あなたが身代わりになってあげなければ

誰が身代わりになるのですか

出会う人全てがあなたなのですから…。」

私達に出来る事、時も経ち今となっては忘れられようとしているけれども  
今なお避難所にいて苦しんでいる方、悲しんでいる方達の生の声を  
少しでも多くの方、世間に知ってもらい、行政が、そして私達ひとり  
ひとりが自分の事だと思い力を合わせる事によって、少しでも明るい未来  
が築けるのではないかと思います。

片づけを終え、帰路につこうとすると公演を見て下すった女性が、ママローザに「この避難所で3ヶ月間上げ膳据え膳で、本当に一生分の良い思いをさせて頂きました。」と仰っしゃられ、その言葉を聞いた時、最初は何処に行くか分からないと言っていた心が、公演後、感謝の心に変わられた事に、今回の公演に意味があったことを感じました。私達の避難所慰問公演の際に着るユニフォームでもある黒いTシャツを「控え目で制服までの気遣い本当に素晴らしいですね。」と仰って下さいました。それは部活Tシャツで、皆それぞれ言葉は違い「費やした努力の分だけ価値がある」、「自分の力を全て出し、身を砕くほど努力をし、どんな困難に出会っても、決して挫けない心を掴め」、「勝利の数だけ努力がある」等と書いてあります。小さな事かもしれませんが、ママローザの「どんな辛い事があっても人はひとつの言葉で蘇る」、を感じずにはいられませんでした。ちょうどその時空を見上げると裏磐梯から感じられる涼風と共に一つの虹が天空にかかっていた。まるで私達に「よく頑張ったさあ、あなた達に虹を見せてあげよう」と大自然が言っているような気がいたしました。



大きな拍手と爆笑の渦！

『花散華』

華天女グループによる癒しの舞

ご縁を結んで下さった  
志村れい様 (右) 避難されて  
いる方 (左から2番目)  
ママローザから

「喜びは 力、喜びは 祈り、  
喜びは 愛」の色紙と共に。

お手伝いをして下さった  
高橋節子様 (左)、

息子さんが、原発で働いていたのですが、許容量以上の放射能を浴びてしまったため  
自宅で療養されていらっしゃり、そのような状況の中お手伝いに来て下さいました。

